

宮崎県における普通植物の分布

金井弘夫

184- 小金井市

Distribution of Popular Plants in Miyazaki Prefecture, Southern Japan

Hiroo KANAI

Koganei, Tokyo, 184- JAPAN

(Received on May 24, 2004)

Distribution of 31 popular plants (Tab. 1 and Figs. 1–8) in Miyazaki prefecture, Kyushu district, southern Japan was surveyed in cooperation with local botanists. *Kerria japonica* is restricted to the northern part of the prefecture. *Adenocaulon himalaicum* has a similar pattern with sporadic occurrence to *K. japonica* as far as the southern hill region. *Macleaya cordata* is found in the northern hill region rather than in the southern lower plain.

Key words: Distribution, Miyazaki, popular plants.

宮崎県における普通植物の分布調査を、2002–2003年に地域在住研究者の協力を得て行った。分布情報を提供していただいた赤木康氏、秋山次徳氏、荒川福夫氏、池辺久美子氏、石山好子氏、井上伸之氏、中武英則氏、成迫平五郎氏に感謝する。また協力者の紹介をいただいた南谷忠志氏に謝意を表する。

方 法

表1に示す31種類を記した調査票を協力者に配付し、一地点で視認された種類に印をつけ、地名、高度、年月日を記録するとともに、20万の1図の縮小コピー上に地点をマークしてもらった。標本や文献からの情報も、同様に記録した。地点の選択や調査時期は任意だが、本調査の目的は分布の時間的変遷を記録することにあるので、時期の異なる調査結果を同じ調査票に記すときには、調査時期が識別できるよう注意してもらった。回収した調査票を地図と照合し、地点の位置を分単位で記録した。協力者によっては、位置を三次メッシュコードで記録している人もいたので、こ

れはそのまま受け入れた。ただし数字のみによる誤記録をチェックするため、地図上の地点表示は行ってもらった。また、パソコンデータとして記録されている場合には、上記の条件に合わせた結果をフロッピーディスクで提供を受けた。

これらの結果を表処理ソフトdBASEで整理し、種別リストを出力すると共に、植物名、位置座標系記号、位置座標、高度、資料種別のデータをテキストデータとして抽出し、これをCD-ROM 長野県植物誌資料集テスト版(清水 2002, 金井 2003)の外部データ利用機能によって分布図に作図した。清水(2002)は日本全域に対応しており、異なるメッシュコードを混用できるので、位置座標の統一処理をする必要がなく、分布図作図や分布密度の産出に有用である。

結 果

得られた分布情報の数は総計10,751件であった。本報では表示メッシュを5倍メッシュ(2.5万図の1/4で Locality Index 相当)(金井

表 1. 調査対象植物と分布密度. 配列は植物コード順. 植物コード (Plant code): 環境庁1987の種番号 (Environment Agency 1987). 情報数 (Record size): 植物産地の件数 (Number of record). 分布点数 (No. of point = P): 表示用メッシュ (本報では5倍メッシュ) において, その種が存在するメッシュの数 (Number of mesh with plant record). 分布密度 (Density = $P/V\%$, $V = 322$)

植物名	Plant name	植物コード Plant code	情報数 Record size	分布点数 No. of point (= P)	分布密度 Density P/V %	分布図 Figure
全数	Total number & Valid Mesh	10751	322 (= V)			1A
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	31350	620	314	97.5	1B
アケビ	<i>Akebia quinata</i>	19210	382	235	72.9	1C
イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	14320	601	304	94.4	1D
オオイタドリ	<i>Reynoutria sachalinensis</i>	14360	0	0	0	
オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>	51420	384	242	75.1	2A
オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	52300	638	314	97.5	2B
カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>	12600	341	221	68.6	2C
キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i>	51690	406	250	77.6	2D
クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	47850	438	264	81.9	3A
クズ	<i>Pueraria lobata</i>	29680	540	289	89.7	3B
ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	30630	299	197	61.1	3C
コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>	28960	178	138	42.8	3D
シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	29860	420	260	80.7	4A
スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	52720	537	295	91.6	4B
スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	14600	56	47	14.5	4C
タケニグサ	<i>Macleaya cordata</i>	21570	220	154	47.8	4D
チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	69520	316	214	66.4	5A
ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	15130	125	97	30.1	5B
ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	65090	374	231	71.7	5C
テイカカズラ	<i>Tracherospermum asiaticum</i>	45190	570	305	94.7	5D
ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	19510	257	174	54.0	6A
ナズナ	<i>Capsella bursapastoris</i>	21830	283	190	59.0	6B
ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	27170	254	181	56.2	6C
ヌルデ	<i>Rhus javanica</i>	32260	489	291	90.3	6D
ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	28220	493	290	90.0	7A
ノブキ	<i>Adenocaulon himalaicum</i>	54480	38	33	10.2	7B
フキ	<i>Petasites japonicus</i>	58870	435	262	81.3	7C
ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	46740	503	287	89.1	7D
ヤクシソウ	<i>Youngia denticulata</i>	60390	259	186	57.7	8A
ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>	34850	263	169	52.4	8B
ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	25390	32	21	6.5	8C

1972) とする. この場合県の全メッシュ数は 342個である. 有効メッシュ (なんらかの情報 が得られたメッシュ) は322個 (図 1A), 有効メッシュ率は94.1%である. この値はこれ迄の他県のそれとくらべると, きわめて詳細な調査が行われたことを意味している. 情報の年代は1980年代以降の視認情報が99%を占めていたので, すべて一括して扱った.

オオイタドリは記録されなかった. 北陸以

北の日本海側から東北, 北海道を分布域とする本種は, 最近ほかの地域で工事跡などにしばしば旺盛な生育が認められているので, 当地域でも調査が進むにつれて, 国内帰化の事例が出てくることが予期される. ヤマブキ (図 8C) は県北の山間部に散発的に認められ, 椎葉地域がその南限である. ノブキ (図 7B) も同様だが, 県境に沿って稀産しながら南下し, 鰐塚山地にまで至る. スベリヒユ (図

4C) は低地に見られ, 200 m 線以上の山地部では少なくなっている. ツメクサ, コマツナギ (図 5B, 3D, 4D) など, 分布密度50%以下の植物にこの傾向が見られ国道沿いに山地にも入っている. タケニグサ (図 4D) は逆に山地部に多く, 県南端部では稀になるようだ. 分布密度60%以上の種類では, 分布状況の地域的違いは認めにくい.

引用文献

- 金井弘夫 1972. 日本植物の分布型の研究 (3) 産地の表示法について. 植物研究雑誌 **47**: 215–221.
- 2003. CD-ROM 長野県植物誌資料集テスト版 (植物資料データベースの問題点). 植物研究雑誌 **78**: 233–243.
- 環境庁 1987. 植物目録.
- 清水建美 2002. 長野県植物誌資料集テスト版 CD-ROM について. 植物地理・分類研究 **50**: 80.

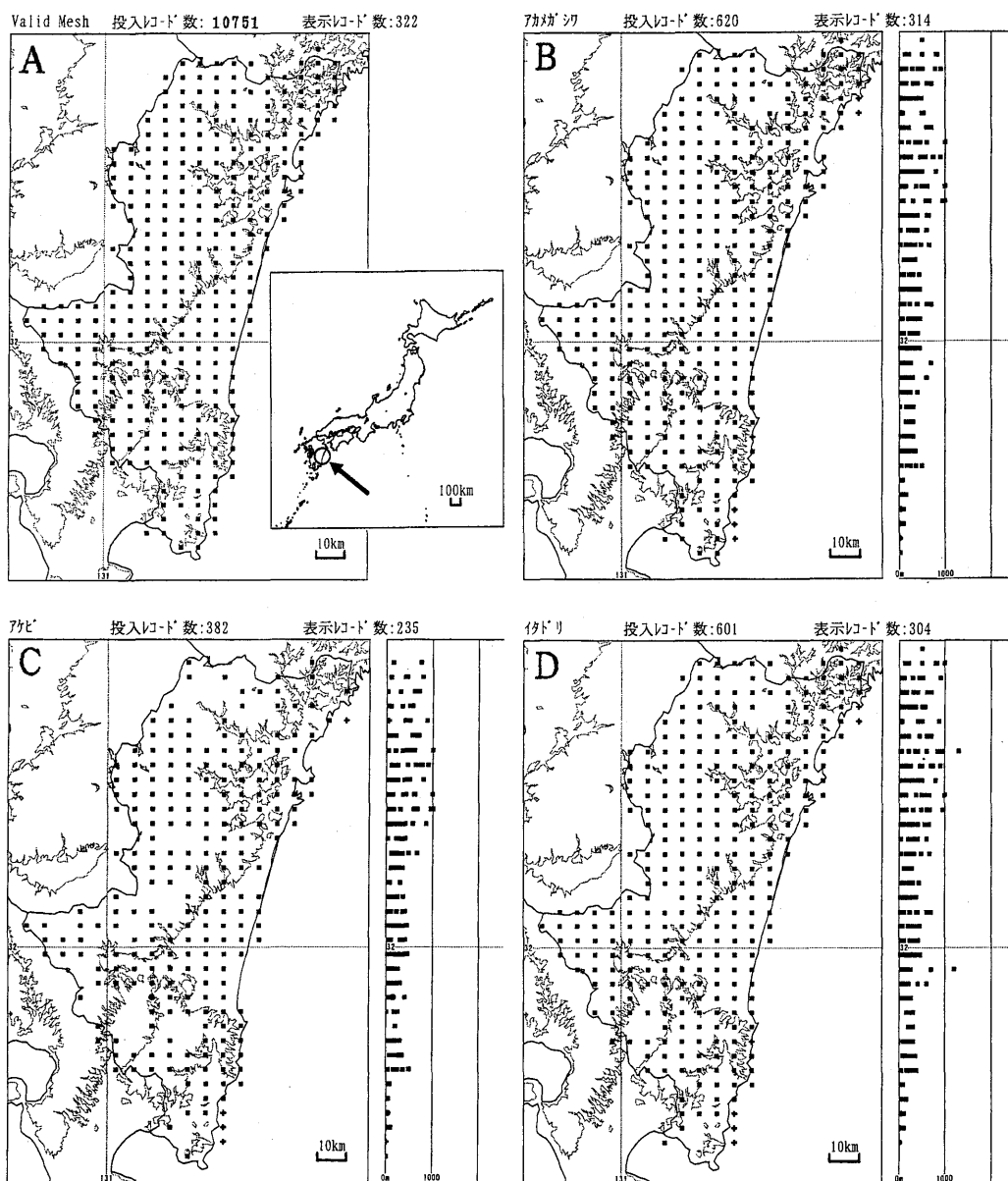


図 1. A: 有効メッシュ. 表示は 5 倍メッシュ相当. 等高線は 200 m と 1500 m. Valid mesh. Contour 200 and 1500 m. ■ 視認 (Observation). + 文献 (Literature). ● 標本 (Specimen). B: *Mallotus japonicus*. C: *Akebia quinata*. D: *Reynoutria japonica*.

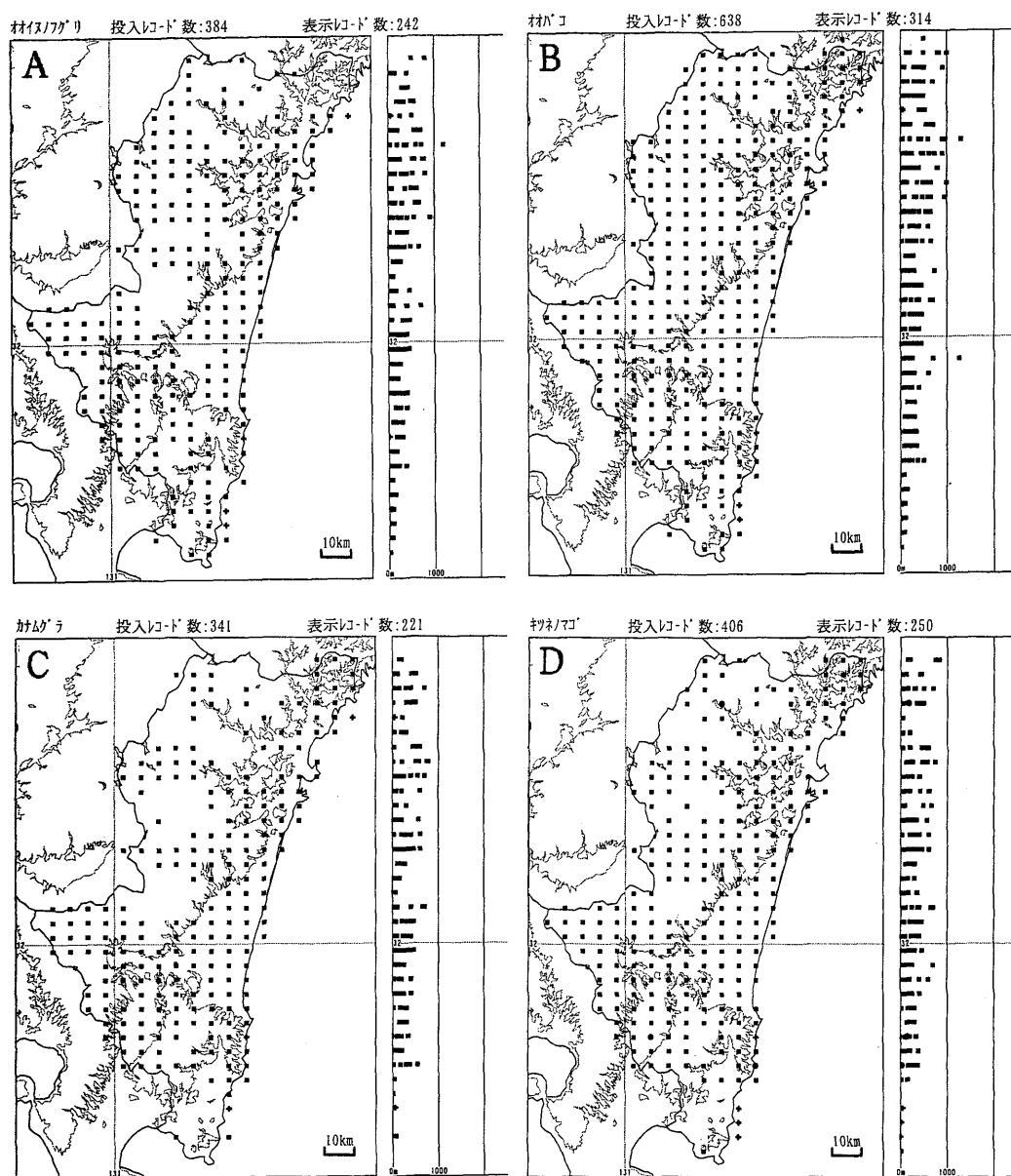


図 2. A: *Veronica persica*. B: *Plantago asiatica*. C: *Humulus japonicus*. D: *Justicia procumbens*.

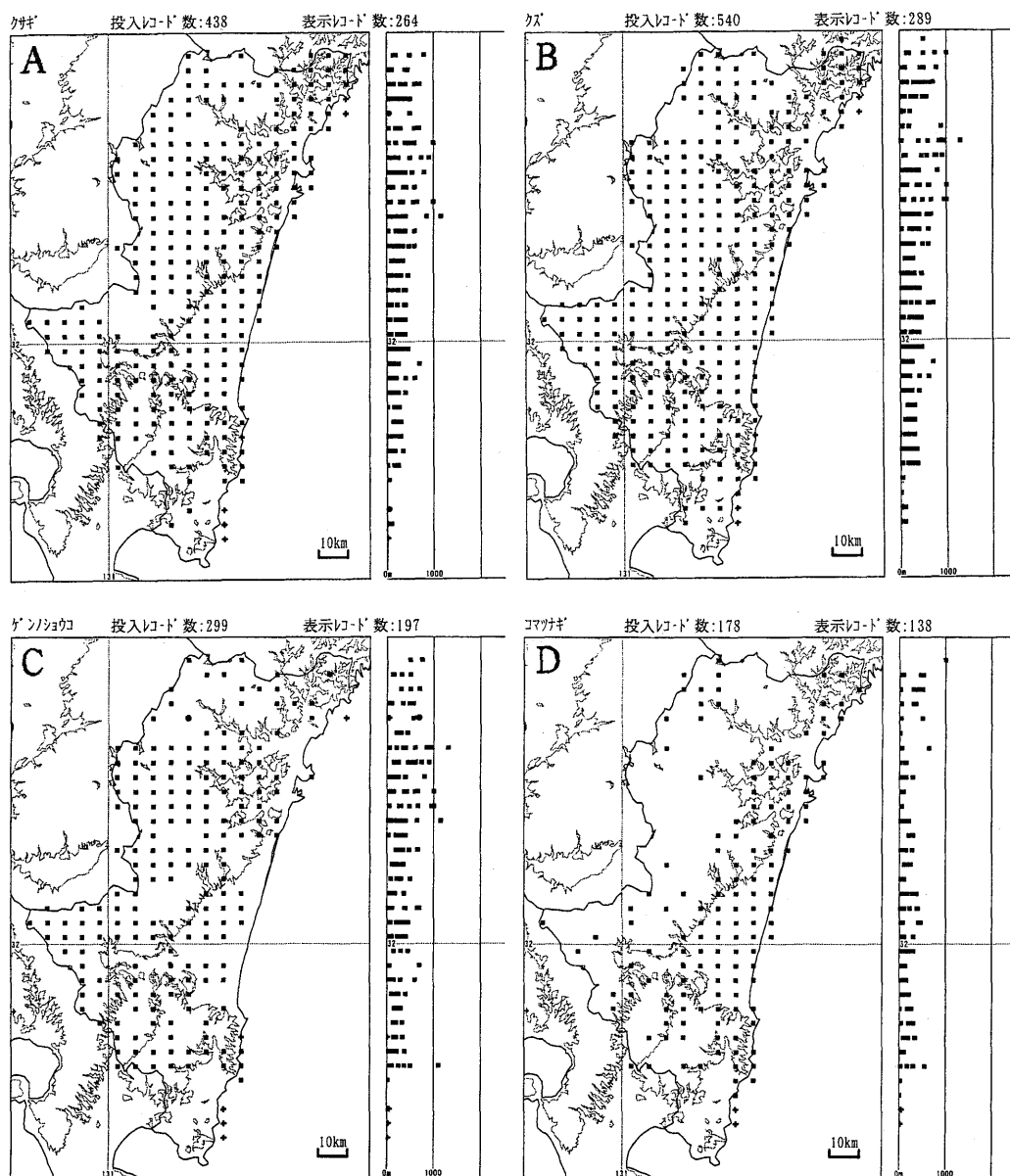


図 3. A: *Clerodendrum trichotomum*. B: *Pueraria lobata*. C: *Geranium thunbergii*. D: *Indigofera pseudotinctoria*.

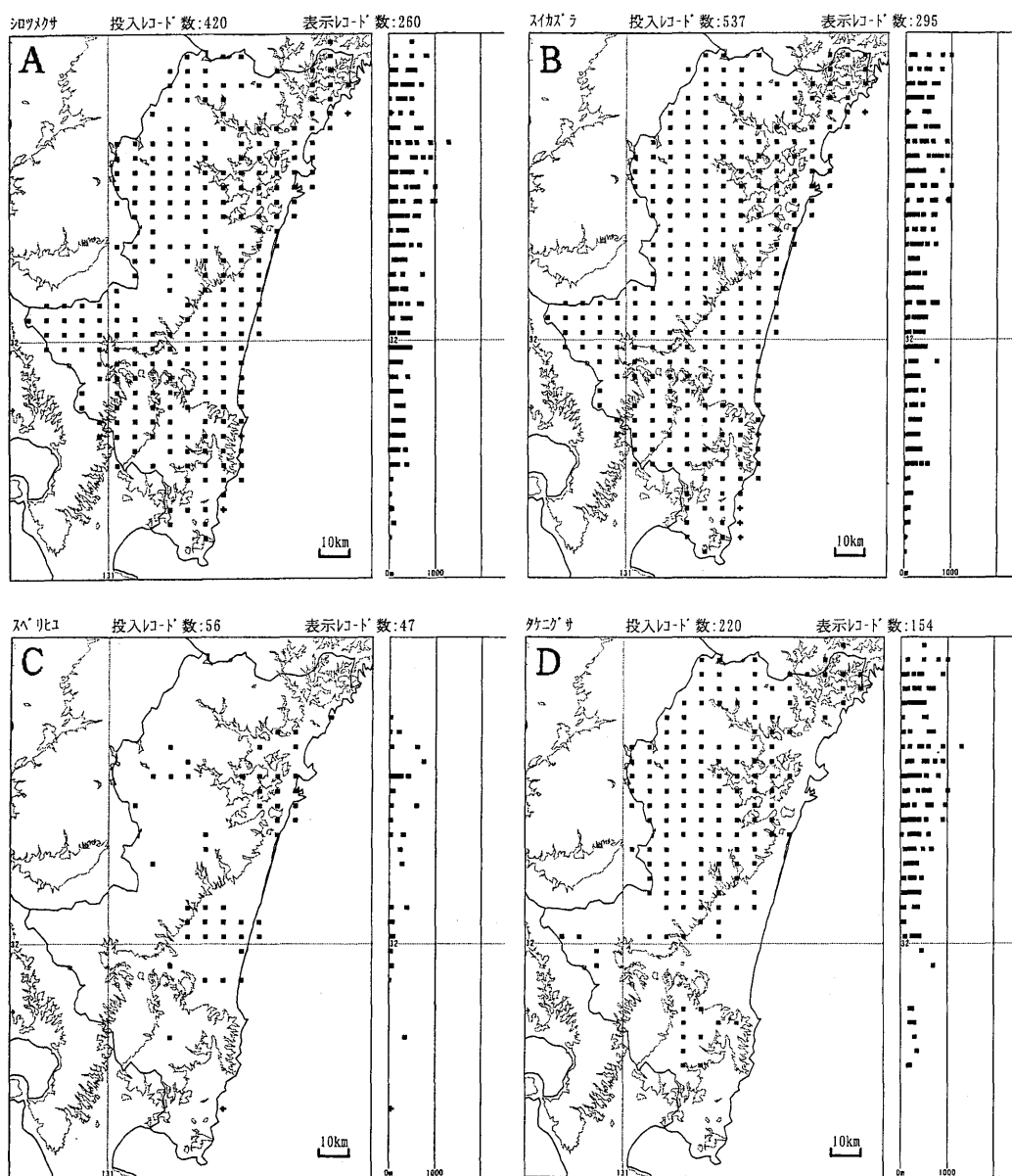


図 4. A: *Trifolium repens*. B: *Lonicera japonica*. C: *Portulaca oleracea*. D: *Macleaya cordata*.

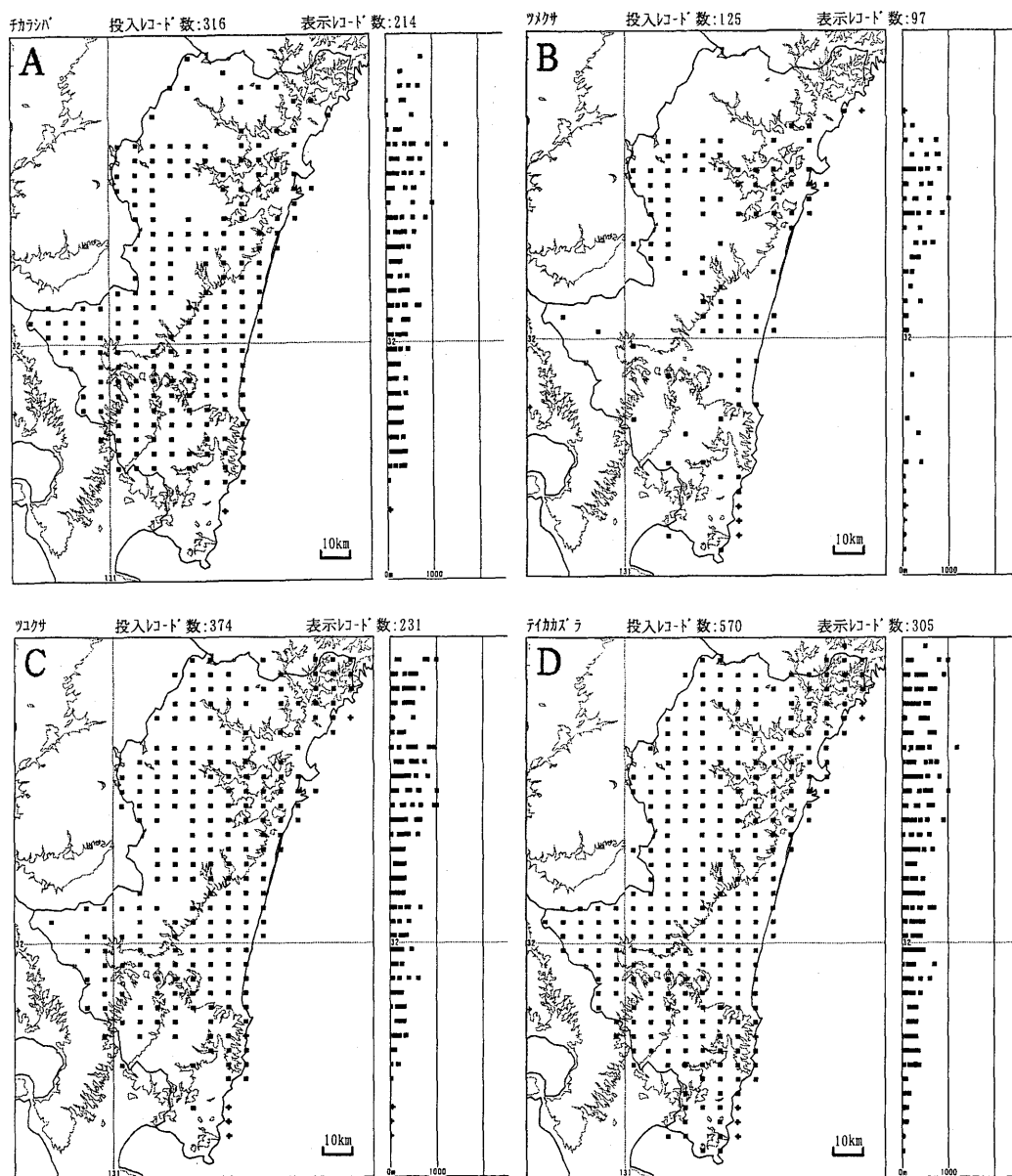


図 5. A: *Pennisetum alopecuroides*. B: *Sagina japonica*. C: *Commelina communis*. D: *Tracherospermum asiaticum*.

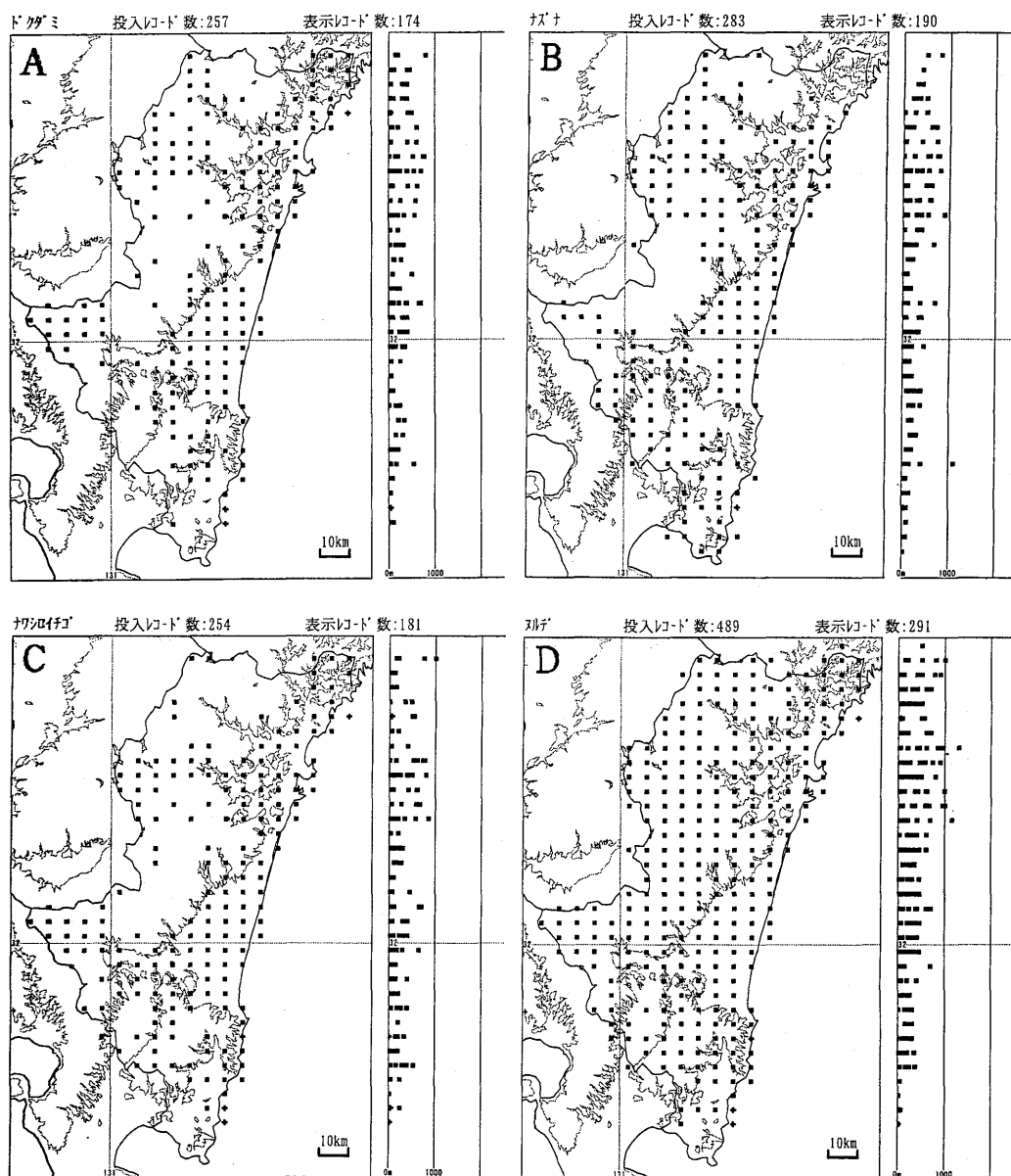


図 6. A: *Houttuynia cordata*. B: *Capsella bursapastoris*. C: *Rubus parvifolius*. D: *Rhus javanica*.

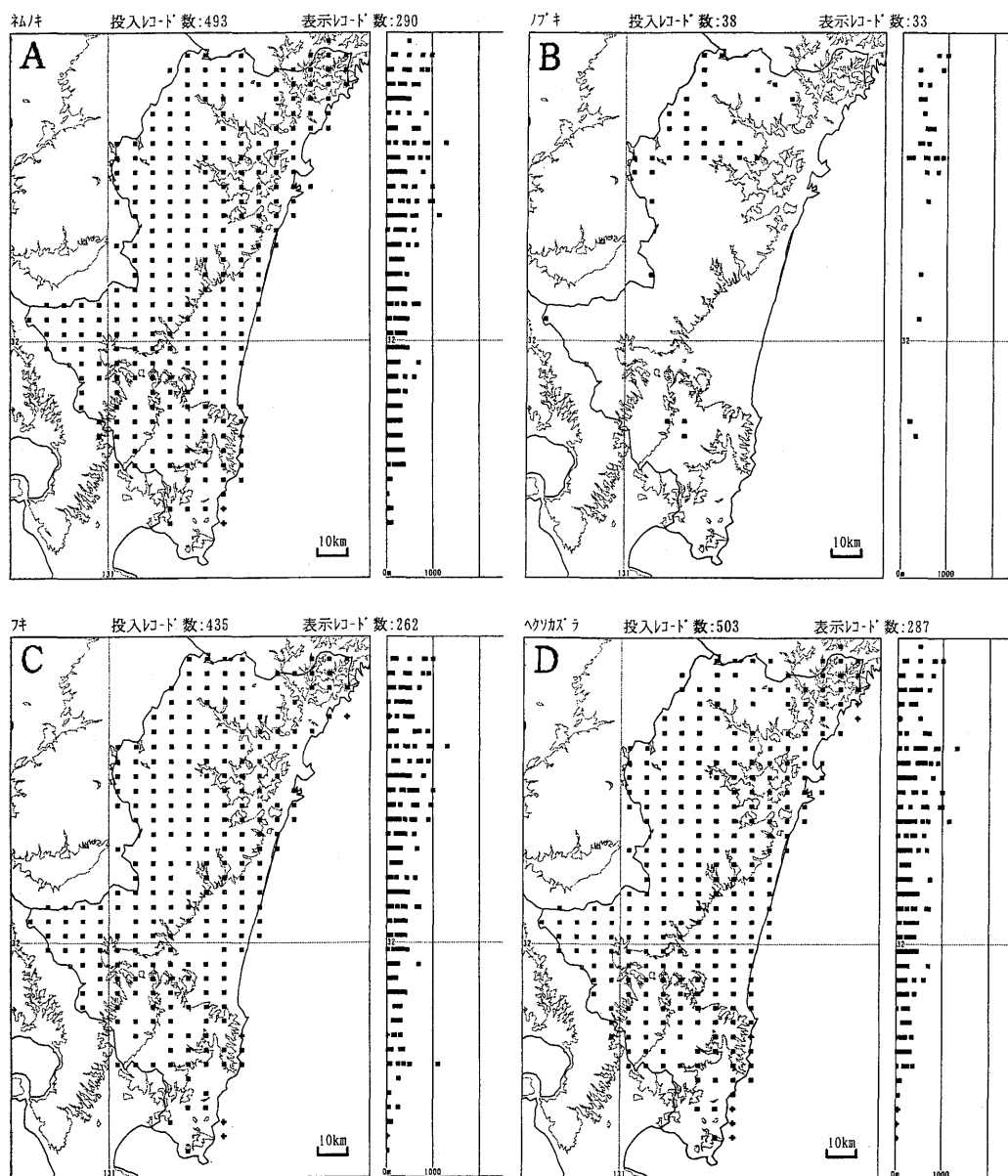


図 7. A: *Albizia julibrissin*. B: *Adenocaulon himalaicum*. C: *Petasites japonicus*. D: *Paederia scandens*.

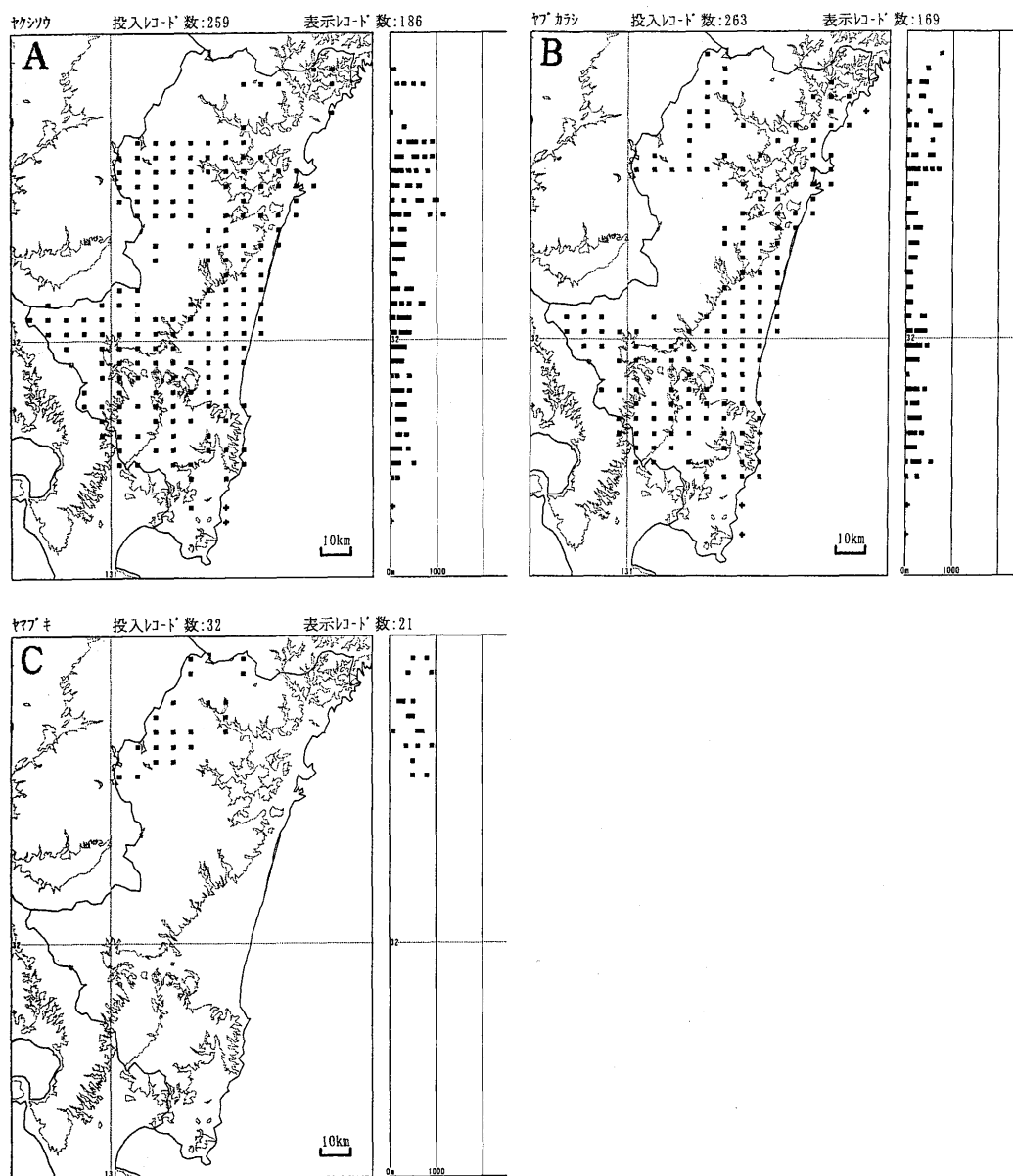


図 8. A: *Youngia denticulata*. B: *Cayratia japonica*. C: *Kerria japonica*.